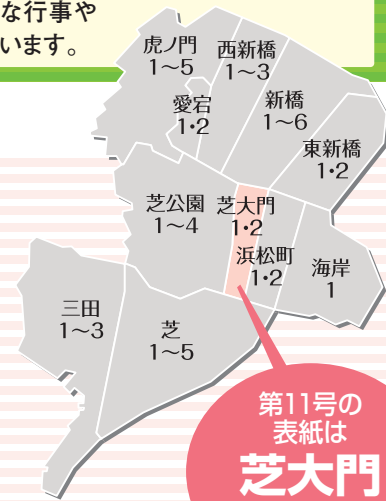


『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



第11号の
表紙は
芝大門
エリアの話題
です



浜松町から増上寺に向けて歩くと芝大門交差点の先に「大門」が建ち、人と車が行き交います



芝大門通りにおける江戸の姿が描かれています。芝神明（しばしんめい）の浮世絵、看板には、

江戸情緒を 残す街 「芝大門」

芝大門。その名の由来には、二つの場所がかかわっています。

一つは寛弘2年（1005）鎮座と伝えられている都内有数の神社、芝神明（現在、芝大神宮）です。ここから「芝」の一字が取られています。もう一つは慶長3年（1598）に江戸城構築とともに現在の場所に移された増上寺の正門、すなわち「大門」です。「大門」とは増上寺全体の正門（惣門）のことで、「ダイモン」と読みます。

現在、皆さんが通り抜けている大門は戦前、近くにあった不動貯金銀行の寄付により紅色のコンクリート造りになりました（木造の旧大門は、関東大震災の後に両国の回向院に移築され、空襲で焼失）。

その昔の大門通りは、増上寺の門前として栄え、旧町名の片門前町、中門前町がありました。大門通りの北側は芝神明（芝大神宮）の町域で、明治2年（1869）に名づけられた宮本町があります。片門前町、中門前町は区内にあった門前町の中でも最大級の門前町でした。

江戸時代からずっと、芝大門の地名は正式なも

のではなかったようですが、明治36年（1903）に開通した路面電車の停留所や車庫名となり、昭和36年（1961）には地下鉄の駅名に使われるようになり、ますます知名度が上がりました。その後、この地域にも港区の住居表示が実施され、昭和47年（1972）に「芝大門」は正式な町名になりました。

ここは日比谷通り、第1京浜国道（国道15号線）に挟まれ車の交通量や観光客など人通りの多いところですが、「芝大神宮」や「増上寺」参道は今も、都会の喧騒をちょっと忘れられる“ほっとできるスペース”であり、四季折々の風情を楽しむことができます。

平成20年11月、港区の「景観計画（素案）」で「大門通り周辺」は、景観形成特別地区の候補となりました。その理由として、「大門や三解脱門を見通す江戸以来の参道の情趣と賑わいのある変化に富んだ魅力的な街並みを育む場所」があげられています。「温故知新」（古きをたずねて新しきを知る）。芝大門がいつまでも地域の方に愛され、発展することを願っています。



芝大神宮（しばだいじんぐう）
芝大門1-12-7
増上寺（そうじょうじ）
芝公園4-7-35

港区で
楽しむ
アート

5

きたむらせいぼう

北村西望氏の彫刻

「帋（とら）」と「平和の女神像」

今回は彫刻界の雄・北村西望氏（1884～1987）の彫刻2点をご紹介します。

長崎のシンボル、平和祈念像の作



実業家・松岡清次郎（1894～1989）収集

●帋（とら）
第5回展出品作（1973年）
松岡田村町ビル内

者としてあまりにも有名な北村先生の作品を、まずは新橋駅に程近いビルで鑑賞することができます。その「帋（とら）」像は、日比谷通りに面した松岡田村町ビルのロビーに置かれています。日本の彫刻界を代表する作家として没後の今もその名声は高く、多くの人々に愛されています。生前「作品は私の子どもである。多くの人々が私の子どもに会いそして、愛してほしい」と語っておられました。雄姿溢れるこの自然界の王者も皆さんのお越しを待っています。近辺は虎ノ門

界限でもあり、付近を散策した後は「帋（とら）」をぜひ堪能してください。

この「帋（とら）」の雄雄しい歩みのように、歩をさらに進めて港区役所前まで足を運んでみましょう。正面右寄りに、同じく北村先生の作品を鑑賞することができます。「帋（とら）」とは全く趣の異なる「平和の女神像」。長崎のシンボル像と共に、作者と一緒に平和を希求する心を持ちたいと思います。乙女のすっと伸ばされた左腕の先に希望に満ちた世界が拡がるよう。〔文・写真■小知和 千佳子〕



松岡田村町ビル 新橋5-22-10
港区役所 芝公園1-5-25

松岡美術館では、松岡清次郎氏収集の美術コレクションを鑑賞することができます。お問い合わせは港区白金台5-12-6 TEL03-5449-0251



●平和の女神像／港区役所前

港区歴史的建造物104

明治時代に生まれた 日本基督教団 芝教会

銀座線虎ノ門駅から徒歩4分、騒がしいオフィス街に静けさをたたえた教会があるのをご存じですか？ おじいさんから3代通い続けた信徒さんもいる135年の歴史ある古い教会で、昭和11年(1936)に建築された現教会堂は、港区歴史的建造物に指定されています。

教会堂を語る資料が戦災で焼失してしまい、分かる範囲でお話をさせていただきます。

明治6年(1873)に切支丹禁制の高札が撤去されるまで、来日キリスト教宣教師の宗教活動は外国外交官のいる横浜、函館、築地居留地等の開港地内に限られておりましたので、そこで日本人のために英語、洋学等を教えておりました。

芝教会の創立にかかわるアメリカ長老教会の宣教師、ジュリアとクリストファー・カローザス夫妻も同様で、明治2年(1869)築地居留地に落ち着き、ジュリアは築地六番館Aで「女子学院」につながる女子教育を始め、クリストファーは慶應義塾で英語を教え、医学、法律学等を教える築地大学校を明治6年に開校し、田村直臣(初代芝教会長老)、原胤信(同)等を教えました。さらに、明治7年(1874)、クリストファーは田村、原を含めて念願の東京第一長老教会を組織し、田村に洗礼を授けました(註1)。

一方、明治6年に横浜で洗礼を受けた安川亨(後に初代露月町教会牧師)が築地の新栄教会に移り(註2)、その後東京第一長老教会に参加しました。しかし、この長老教会は、カローザスの宣教師辞任、教会員間の意見の相違等の理由で明治9年(1876)に芝教会と銀座教会に分かれたそうです(註3)。田村の伝記にも「芝教会は、第一長老教会の後身である。築地を去って、芝露月町に移り、露月町教会と称え、後、愛宕下に移り芝教会と称するに至った」と書かれています(註4)。

明治11年(1878)露月町教会が献堂されましたが(註5)、どの程度の規模であったのか、



明治21年 愛宕町の芝教会堂：芝教会提供

また露月町何番地にあったのかを探してみました。芝教会の規模は、後に監獄巡回伝道師となった好地由太郎の自伝に明治16年(1883)頃「芝露月町講義所の安川牧師に會ひ、母が聖書を戴き(註6)とあるので、講義所で教会に至らないのかと思いました。しかし、同年韓国の李樹廷が「東京露月町教会に於いて安川亨氏より聖洗を受けられたり」(註7)との記述があり、さらに明治11年から16年までの芝露月町教会の信徒数が年108人から172人との記録もあり、明治時代初期にあって、大きな教会であった様でございます(註8)。

「芝露月町」は、現在第一京浜国道を挟んで新橋5丁目の一画で、今も露月町会があります。明治9年の地図では露月町の番地は1番から37番地までしかございませんので、教会の所在地についていろいろと資料を調べましたが、どの資料も露月町教会と書き、番地は不明でございました。ご存じの方はぜひご一報頂きたく存じます。

「創立百周年芝教会年表」によると、明治17年(1884)に東京虎ノ門教会(旧葦手町教会)と芝露月町教会が合併し、芝愛宕町に移転したと記載がございました。しかし、番地は不明でした。そこで大正10年(1921)版沿革地図を調べると、愛宕町2丁目15番地(現西新橋3丁目3番地)に芝キリスト教会の印を見つけ、さらに昭和13年(1938)3月発行の「芝區史」に日本基督教団芝教会の項目があり、「東京に於ける教会堂…東京基督教(新栄教会)に次ぐ古い教会である」とあり、同番地の記載を見つけました(註9)。明治21年(1888)に同番地に煉瓦造3階建の新教会堂を建設しましたが、大正12年(1923)関東大震災で焼失、翌年木造仮教会堂を建築したと年表にございました。

昭和10年(1935)末に西久保桜川町14番地(現虎ノ門1丁目20番15号)に土地を購入、翌年鉄筋コンクリート3階建ての教会堂を完成、移転をいたしました(註10)。その時の芝教会堂が現存しており、その設計はゴシック様式で(註11)、工夫が凝らされ、東京帝国大学卒の建築家、後にゴルフ場のクラブ・ハウスの研究

- 註1 中島 耕二 著 築地居留地と米國長老教会の初期伝道 p28-33 築地居留地研究会
註2 秋山 繁雄 編 井深繩之助宛書簡集 p74 明治学院
註3 井深繩之助とその時代刊行委員会 編 井深繩之助とその時代 第1巻 p405-406 明治学院
註4 田村 直臣 著 信仰五十年史 p38-39 大空社
註5 日本基督教団 芝教会 編 創立百周年芝教会年表
註6 好地 由太郎 著 恩寵の生涯 p13 彩雲堂
註7 佐波 亘 編 榎村正久と其の時代 p578 教文館
註8 井深繩之助とその時代刊行委員会 編 前掲書 第2巻 p456-465
註9 東京市芝区役所 芝區史 p1441
註10 東京市芝区役所 前掲書 p1441
註11 藤森 照信 著 日本の近代建築(下) p86 岩波新書



芝教会堂の正面



芝教会堂内

で学位を取られた本教会員の間野貞吉(1903-1979)でございます。

73年も経ておりますが、芝教会堂はモダンなデザインで、正面から見ると腰部に鉄平石が張られ、白い壁に3階まで至る大きな細長いアーチ状のステインド・ガラスの窓がございました。教会堂は、1階が集会室で、入口のホール左側の石の階段を2階に上り、左側に入ると、突然3階までの吹き抜けで、天井がなく太い梁(はり)組があり、6個のランタンが下がる礼拝堂になります。昭和の初めにフランスから輸入されたステインド・ガラスの窓から乳白色のやさしい光が射しこみ、礼拝室内は、正面に大きなアーチに縁取られた重厚な祭壇と信徒が座る長い椅子が幾列にも置かれ、質素ながら、おおらかで、外のせわしなさを忘れさせてくれるやさしさと静けさに満ちております。

歴史、建物、雰囲気などを大切に維持、保存していかなければならない港区歴史的建造物104 芝教会の物語でございます。

●取材協力：日本基督教団 芝教会 松下恭規牧師、芝教会長老の皆様

(文 ■ 森 明)
(文中敬称省略)

Info 日本基督教団 芝教会
虎ノ門1-20-15
TEL 03-3591-4805

家康公が還暦記念に作らせた「寿像」が今なお残る

芝東照宮は徳川家康公をお祀りする霊廟として没翌年の元和3年(1617)、菩提寺である増上寺境内の丸山の地に「増上寺安国殿」として建立。そのご神体は60歳を迎えた家康公が作らせた等身大の寿像であります。

寛永18年(1641)に3代將軍家光公により造り替えられました。その後明治の神仏分離令により増上寺から切り離され、日光・上野・久能山とともに4大東照宮のひとつとして広く人々の尊崇を集めてきました。昭和20年(1945)戦災によりご神体とご神木のいちようを残し灰燼しましたが、昭和44年(1969)に神殿が再建され現在に至っています。



ごちんまりとしているが、端正な社殿の芝東照宮

樹齢370年、圧倒的な存在感で人々を魅了する

いちようは家光公が植えられたものと伝えられており、樹齢約370年になります。昭和5

芝東照宮と いちよう



根元周囲約8.3メートルの存在感

年(1930)国の天然記念物に指定され、その後文化財保護法の改正により昭和31年(1956)に東京都指定天然記念物に指定し直されました。平成5年(1993)の調査では、高さ約21.5メートル、幹周り約6.5メートル、根元の周囲約8.3メートル。幹の途中から大きく3本に分かれ、都内有数の巨木として圧倒的な存在感があります。

晩秋の時期芝公園からは、そこに小判でも埋められているかのように見事な黄金色の姿が見られ、冬には澄んだ陽光のもと、東京タワーや高層ビルを背景に思い切り枝を伸ばし、都心の巨木としてきっぱりと立ち上がっています。近くの梅林の紅白の花が咲き、菜の花、

桜とあわただしく春が変化していく中で、じつくりとたくましく新芽の準備をしています。また夏の強い光の中で、旺盛な生命力を楽しんでいるように、枝いっぱいについた葉を広げ、憩いの場を提供しています。

これまでの長い年月に蓄えられた体力・経験を生かし、新しい生命のために全力を尽くして孤高に立ち、時の流れを見つめているこのいちようから、「存在するために生きる」という勇気を与えられたような気がしました。

(文・写真 ■ 岩崎 秀顕)

Info 芝東照宮
芝公園4-8-10

これぞ
黄金色の
いちよう



芝地区 の風景

俳人たちに愛された 茶店“田川亭”と弁天池

都立芝公園の一角に紅葉谷があります。昔、その谷から水が滝のように流れ、注ぎ込んだ先に大きな池がありました。それが弁天池でした。弁天池の中央には橋の架かった島があり、そこには弁天様が祀られていました。

弁天池は大正、昭和と子どもたち

の遊びの場でもありました。春から夏にかけては、暗くなるのも、お腹が減るのも忘れ、木の枝で池を突き「ザリガニ捕り」に夢中になりました。冬は池に氷が張る様子を観察し、「早く氷が厚くなるように」とお願いしながら学校を行き来していました。氷が厚くなると弁天池は「スケート場」



現在の弁天池

になり、子どもたちはマフラーと手袋に運動靴をスケート靴代わりにし、寒さにも負けず顔を真っ赤にして滑りまわっていました。

増上寺の暮れの鐘が鳴る夕暮れときは、芝神明の芸芸さんがカラコロと下駄の音を鳴らしながら橋を渡って、粹にお参りしていたものです。また、花見や紅葉の時期には、家族づれで賑わっていました。

その弁天池の橋のたもとに団子とお茶を売っている平屋づくりの茶店がありました。この茶店、始めは屋号がありませんでした。5代目店主の昭和の時代になってから当時俳句の会でこの茶店を毎月利用していた「ホトギス」の高浜虚子やその仲間が「店の名がないのなら」と言って、店主の苗字をとって「田川亭」と命名しました。茶店の離れの縁側で四季折々の景色を彩る美しい弁天池に臨みながら、ここからたくさんの名句が生み出されました。

その茶店の前には縁台が並べられ、増上寺の参詣や弁天様にお参りに来た人たちが腰を下ろして一休みし



昭和のはじめ、田川亭で食事をする子ども(写真提供：田川晴道さん)

たり、増上寺の所化さんたちの憩いの場となったり、毎日大活躍していました。

人々に愛され続けた「田川亭」は、時代の移り変わりとともに昭和33年(1958)に店を閉じました。現在、弁天池は赤羽橋近くに形を変えて残り、弁天様も宝珠院に祀られています。今でも都会の喧騒から離れ、芝公園の木々の中、弁天池の畔(ほと)に行く、人々に賑わっている茶店があったころの姿を呼び起こしてくれます。これからも“心の風景”として茶店と弁天池が人々の記憶に残されていくことを願っています。

Info 宝珠院・弁天池
(ほうじゅいん・べんてんいけ)
芝公園4-8-55



愛宕神社で榊（ごんねぎ）として活躍されている松岡里枝さんを訪ねました。榊（ごんねぎ）とは神職の肩書きで、神社で宮司さんを補佐する職です。

松岡さんは大学卒業後、OIを経て家業である神職に就きました。一般的に神職は男の子が跡を継ぐものという風潮がある中、ご両親がその考えにとらわれることなく子どものころから家業のお手伝い要員としてさまざまな行事に参加させていたため、抵抗なくこの職に就けたということです。今でこそ女性の神主さんは少なくありませんが、成りたてのころは会合などに参加すると男性の中に女性一人ということが多々あり、とても珍しがられたそうです。しかし、それがきっかけとなりどんどんネットワークが広がって、今では全国にたくさんお友達ができたということです。

さらに松岡さんはご自身の日常を楽しみ執筆された本を出版しており、それを読むと神社という存在は実はとても身近なものであったと再認識させられます。

神社の最大の行事といえば初詣でしょうか。年末年始は徹夜で、七草粥の頃まではお休みなしの毎日が続きます。他にも七五三、成人式、結婚式、厄年の厄払いとさまざまな行事に囲まれていて、長いお休みはとれません。

その他、外部からの依頼事やいろいろな問い合わせ等があり、さらに主婦としての家事もあり多忙な毎日が過ぎてゆきます。

近年、ほおずき市や羽子板市といえば浅草のイメージがありますが、実は発祥の地はここ愛宕神社です。一時中断していたこの行事を今の宮司さん（松岡さんのお父様）が復活させたそうです。

江戸時代には、愛宕のほおずきは薬として飲まれていたと伝えられています。現在は毎年6月23・24日の「千日詣り」というお祭りの日にほおずき市が出ます。毎回ほおずきが売り切れてしまうほど人気とか。

9月には愛宕神社で最も大きなお祭り「大祭」があります。神社には行事が盛りだくさん、本当にお忙しい毎日です。

日本人の気質も環境も多様化してきましたが、季節や年齢の節目に行われるさまざまな神社での行事に日本人の文化を感じることができるのではないのでしょうか。日常をちょっと楽しく変化させるヒントがみつかるかもしれません。

松岡さんは地域の皆さんと行う行事を人と人をつなぐ架け橋として大切にしていきたいとおっしゃっています。

愛宕神社は春には桜、秋には紅葉と、自然を美しく感じることができ、「ここは本当に港区ですか」と驚く人もいるというのわかる気がします。

神社へ行くにはエレベーターもありますが、「出世の石段」と呼ばれる石段を下からの景色を楽しみながら登ってみてはいかがでしょうか？元氣な松岡さんに会えるかもしれません。

〔文・写真 ■ 小林 真紀子〕



Info 愛宕神社
愛宕 1-5-3
TEL 03-3431-0327

道路や公園を自分たちの力できれいに!



地域貢献の新しい形

「アドプト活動」をご存じですか?

「港区アドプトプログラム(アドプト活動)」とは、地域の皆さんが道路・公園・花壇などを自分たちの養子(adopt: アドプト)として、清掃したり花を植えたりする新しい形のボランティア活動です。芝地区では今年4月1日現在で22団体が登録し、活動しています。

写真でご紹介するのは、昨年11月からアドプト活動を開始している(株)カナデンの皆さんです。社員有志の皆さんは、月2回の活動日に朝早く出勤し、会社近くの道路や公園の清掃活動を積極的に行っています。

参加者の感想を紹介します

「地元に住む方から“ご苦労様”と声を掛けられることが増えてきました」
「地域住民の方とのあいさつはすごく気持ちが良いものです」
「道路のゴミにはタバコの吸い殻が目立ちます。マナーの大切さを感じます」
「この活動で少しでも街がきれいになるのであれば毎回参加したいと思います」

アドプト活動に参加していただいている皆さん、
これからもどうぞよろしくお願いします。



参加を考えている皆さんへ

自分たちの街を自分たちの手できれいにするアドプト活動に参加して下さる方は、お気軽にお問い合わせください。区では清掃用具の貸与や草花の支給、保険加入などの支援を行っています。

参加対象者

区内に在住・在勤・在学する個人または団体

問い合わせ先

芝地区総合支所協働推進課土木係
TEL 03-3578-3132

芝地区 アドプト活動・参加団体一覧

2009.4.1現在

実施団体名	活動内容
新橋レシガ通り発展会	街路樹樹の草花植付
日本ビューム・ボランティア活動委員会	清掃活動
日立キャピタルオートリース(株)	清掃活動
北四国町会	花の植付・清掃 (プランター含む)
シャープ株式会社 浜松町事業所	花の植付・清掃
森永エンゼル会 田町センタービル ピアタ会	花の植付・清掃
荻野 昭彦 他2名	花壇管理
新橋はつらつ太陽	清掃・花壇管理
芝大門一丁目宮本町会	花壇管理・植栽管理・パトロール・清掃
NECネクサソリューションズ	清掃
芝大門一丁目北親(ほくしん)会	花壇管理
リコーテクノシステムズ	清掃
愛宕一之部連合町会	花壇管理
日本メトロニック(株)	清掃
友楽会	花壇管理
ポケットカード(株)	花壇管理
PIMCO PARTNERS JAPAN	花壇管理
(株)ジェイコム 東京営業所	清掃
芝2・寿フラワーグループ	街路樹樹の草花植付
プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン	清掃
(株)富士通四国システムズ	清掃
(株)カナデン 大門地区有志	清掃

しあわせ健康づくりレジピ

さわやかな季節になりました。レジャーやスポーツと楽しい時期ですが、これから暑い夏をむかえる前の体力づくりの提案として、虎ノ門1丁目にある虎ノ門高齢者在宅サービスセンター、愛称:とらトピアの所長・生活相談員の大林初実さんと栄養士の橋田さつきさんにお話を伺いました。



施設は港区在住・在勤者も利用できます

とらトピアには高齢者在宅サービスセンターのほか健康福祉館があり、福祉会館事業に加えて、介護予防や健康づくり事業も行われています。木目を基調としたとても明るい雰囲気、敬老・栄養教養室。そしてロビーは地域の交流スペースとして活用できます。2階には高齢者だけでなく在住・在勤者も利用できる、さまざまな



〔文・写真 ■ 桑原 庸嘉子〕

『とらトピア』で教えてもらいました!

トレーニングマシンのそろったトレーニングルームもあり、やはり健康づくりには常日頃の運動は欠かせません。

高齢者在宅サービスセンターでは、介護保険で要支援・要介護の認定を受けた方々が、季節の行事やお食事、機能訓練などの時間を過ごしています。

最近のレクリエーションでは、蕎麦打ちやクレープ作りもされたそうです。拝見したお写真では、ねじりはち巻き姿で蕎麦打ちをされている様子がとても楽しそうでした。

食に意識を持つことは健康づくりの近道

お話の中でとても興味深かったのが、「食に意識のある人」は基礎体力があるので、冬のインフルエンザや風邪に強いとか。春や夏など、季節の食の取り方で後の体力に違いが出るということで、バランスよく栄養を摂取することの大切さを知りました。

そこで今回は橋田さんに、これからの暑さを乗りきるためのおすすめ簡単メニューを教えてくださいました。

〔文・写真 ■ 桑原 庸嘉子〕

ビタミンたっぷりの春キャベツを使った

超カンタン本格中華

『回鍋肉』です!

ぜひ、お試しください。



材料 (1人前)

春キャベツ 50g
ピーマン 1つ
しいたけ 1つ
豚肉薄切り 60g
片栗粉 適宜
ごま油 小さじ1
しょうが・にんにく・紹興酒(ジョウコウシュ)※ 各少々
砂糖 小さじ1
④ 甜麺醤(デンメンジャン)※ 大さじ1
(または田楽味噌...大さじ1でも可)
しょうゆ 少々(香り付け)

※紹興酒は「中国の醸造酒」。甜麺醤は「中華甘味噌」。

作り方

- ① 野菜は食べやすい大きさに切り、1分ゆでる。
- ② 肉は食べやすい大きさに切り、片面に片栗粉をつけ色が変わるまでゆでる。
- ③ ごま油で④をさっと炒め、野菜と肉を入れ炒め合わせる。
- ④ 仕上げにお好みでごま油をたらす。

あの頃、戦争があった

大正・昭和・平成の時代を繋ぐ ～私は女性宮司第1号～

三笠 季枝さん 大正5年(1916)生まれ 92歳



90歳の誕生日のときのお写真です

父が決めた小学校の転校、そして卒業

大正生まれの私は三田の地で生まれ育ち、現在もこの地で地域の方とともに過ごしています。小学校は今の三田図書館の地にあった南海小学校に通いました。小学校4年生(昭和元年)のとき赤羽小学校が創立され、南海小学校に通っていた子どもたちの通学区域が変更されました。新築された赤羽小学校の裁縫の教室には給台があり、最先端の素敵な学校でした。私は赤羽小学校を卒業するつもりでしたが、南海小学校の卒業生である父は「歴史のある学校を卒業するほうがいい」と言い、5年生のとき再び転校し、親子とともに南海小学校の卒業生になりました。父が決めたことに逆らえない時代でしたから素直に

昭和一桁の心意気を 露月町とともに… ～わが家の前は東海道～



寺西 伸平さん
昭和7年(1932)生まれ
77歳

“国道”が私たちの遊び場だった

私の家は、父が大正13年(1924)に露月町(ろげつちょう)に創業した日除け、テント、雨合羽の製造販売店です。店の前は現在、第2京浜国道と呼ばれています。昔は国道1号線、江戸時代は東海道です。子どものころの一番の遊び場はこの国道1号線でした。当時は自動車も少なく、人道(歩道)が広がったので、そこにペーゴマの床を置き、子どもたちは思いのマイペーゴマで対戦しました。自分のペーゴマが一番強くなるようにとペーゴマを磨くのですが、磨き方は秘密でした。誰かに教えると大事なペーゴマがみんな取られてしまうからです。昔の思い出の中に市電(戦後は都電)が国道1号線を走っていたのを覚えています。1番は品川から上野まで、22番は新橋から南千住まででした。露月町は国鉄・山手線の新橋駅が近くにあってだったので、市電を利用することは少なかったのですが、ペーゴマ遊びをしている横を市電が通る風景は新橋ならではのこ

從いしましたが、子ども心には新しい近代的な赤羽小学校に通いたかったですね。

“わが家の境内”や “市電の3番”を遊び場に

この三田通りは商店が多く、尋常小学校を卒業すると小僧さんとして働きにくる子がたくさんいました。小僧さんの多くは南海小学校にあった夜学に通っていました。勉強をさせてくれることを条件に働きに来ていた子もいましたが、小僧さんたちは商店の人たちの応援で学校に通わせてもらったのだと思います。昔から人情味のある地域でした。

子どもたちの遊び場はというと、わが家(春日神社)の境内とそこから続く慶應義塾への崖でした。神社には男段、女段と名づけられた石段があり、その段の駆け上りや崖のぼり、崖から慶應義塾の裏山に抜ける遊びが盛んでした。

少し大きくなると、三田通りを走っていた市電(戦後は都電)の3番(札の辻―飯田橋)を利用した遊びがありました。3番はUターンする場所が狭かったので、車両が短く出入口が2つしかない小さな車両を使っていました。入口にぶら下がつて乗るのが粋とされ、停留所につく前のスピードが落ちたときに飛び降りるのが「冒険」と呼ばれる遊びでした。自動車も今よりもずっと少なかったので速度を緩めて粋な計らいをしてくれる市電の運転士もいました。女の子は「はしたないことをしてはいけません」と言われやったことはありませんが、慶應の学生が挑戦しているのを応援し、かつこよくできると拍手喝采しました。

家族が力を合わせて頑張った時代

昭和8年(1933)だったと思いますが、東京音頭ができました。神社の境内は少し小高くなっていたので、芝3丁目の空き地のあちこちで踊りを教えている様子が見えました。周りに高い建物がなかったときは、隅田川の花火や芝浦の船もよく見えました。今は、ビルが建ち並びまちの



様子はずいぶん変わってしまいました。昭和20年(1945)5月25日の空襲で本殿が焼けました。父はご神体を背負って戦火を逃れながら目黒の三田にある春日神社に避難しました。「死ぬときは家族揃っていよう」と決めた父はバラックを建て、家族全員で生活を再開し終戦を迎えました。戦争中は慶應義塾の生徒出陣を自分の部屋から見送りました。皆、無事に帰ってこられるように祈りましたが、多くの学生が帰らぬ人になったことは悲しい出来事でした。食料も思うように手に入らない時代でした。境内の空き地で野菜を作ったり、茨城の親類の農家を訪ねて米の買出しに行ったりと…。

主人が行くと統制で取られてしまうのが、小柄な私だと持てる量が少ないと思ったのが取られることはなく、「買出しはお前に限る」と何回も買出しに行くことになりました。生きるために家族が力を合わせて頑張った時代でもありました。

父の勧めがあり、女性神職の道へ

昭和23年(1948)に神社本庁の規程が改正され女性の神職の道が開けたとき、宮司だった父が「神



ビルに避難していました。10日未明に空襲警報が解除されみんなで家に戻ろうとしたとき、焼夷弾が投下されました。焼夷弾の一つがわが家の前に落ちあつという間に家は焼けてしまいました。母と姉・妹はその日のうちに三島へ疎開しましたが、私と父は中野の知り合いのところに身を寄せて、戦争の行方を見ていました。終戦後、昭和21年(1946)にバラックを建てて仕事を再開しました。

戦争が始まるまでは、家業は日除け、テント、雨合羽の製造販売でしたが、戦局が進むにつれ民間での仕事がなくなってきたので、父は仲間と企業合団体をつくり、落下傘や背嚢を作る軍の仕事をしていました。戦争中も休むことなく仕事があったことは幸せなことだったと思います。

父との約束で家業を手伝うことを条件に大学に行かせてもらいました。私たちの年代は家業を継ぐことが当たり前でした。私も男の子が一人でしたので素直に跡を継ぎ、今も次世代に継承しようとして頑張っています。昭和一桁の心意気を露月町とともに…。



戦後のミシンですが、今も現役で働いています

職の資格は持っていたほうがいい」と勧めてくれたので、国学院の婦人神職養成所に通いました。同級生は6人で、卒業生が全員宮司になったかわかりませんが、私は昭和34年(1959)に女性宮司第1号になりました。

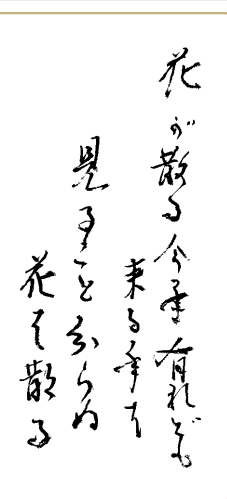
女性宮司としての最初の大仕事は、戦争で焼失した本殿の建立でした。焼失した本殿の屋根は銅葺きで、土の中に埋まっていた。職人がよく働くに評判だったのは、この銅が手間賃の一部として自由にお持ち帰りされていたかららしいと後で知りました。先祖が残してくれたものが、本殿の建立に役立ったと感謝しています。

長年三田の地で父とともに仕事をしていたので、女性宮司ということも地域の方も気持ちよく受け入れてくださいました。今は息子に代を譲りましたが、地域の方と三田で過ごせることに幸せを感じています。これからも三田の地の発展を願ひ続けてまいります。

取材をした4月3日に詠んでくださった短歌です。

～はながちる ことしあれども
くるとを
みるこわからぬ
はなはちる～

「今年は桜の花が散るのを見ることができたけれども、来年はわからない」とお感じになり、この歌を詠まれたそうです。



しばのいえ につき 「芝の家」 日記



芝の家が昨年10月にオープンして早いもので約8カ月がたちました。この間に多くの方々と接することができ、町には、コミュニティを創出する「種」がたくさん埋もれていることがわかりました。これらの「種」を皆さんと一緒に育てていけるよう、丁寧に場づくりをしていきたいと考えています。5月からはワンコインで喫茶的な利用もできるようになりましたので気軽にお越しください。

■2月のある日 新人スタッフのつづき

芝の家に学生スタッフとしてかかわるようになって2カ月が過ぎようとしています。地域の皆さんと過ごす時間はとても楽しく充実しています。子どもたちと一緒に遊ぶこともあるのですが…まだにけん玉ができません。「えー!?!けん玉できないのー!?!」と子どもたちに馬鹿にされ、とても悔しいので、ただ今練習中です。実は私、ペーゴマのやり方も小学生に教わったんです。でも「ペーゴマ対決していたら火花が出たんだよ!」と嬉しそうに話す彼らの実力にはまだまだ追いつきそうにありません。けん玉もペーゴマも今は練習あるのみ!がんばります。

■3月ばかばか陽気のある日 縁側を芝の名物に!

陽光が気持ちいい季節になりました。今日もまた、

縁側でひなたぼっこをはじめた人が一人。背広をビシッと着たこのサラリーマンは「縁側に腰掛けるなんて地方営業のとき以来だ」と嬉しそうです。そうそう、静岡の茶畑には「縁側カフェ」なるものが存在し、町おこしに一役買っているそうです。芝も負けてはいられませんね。

芝の家では慶應大学と協力して「メディア縁台(※1)」と「コミュニケーション縁台(※2)」を制作しています。これらの縁台を路地に設置して、地域の人たちのコミュニケーションのきっかけを増やしたいと思うのです。そのために縁台を預かって、庭先や軒先に設置してくださる方を募集しています。

※1 前を通ったり、座ったりするとセンサーが反応して、昔話などさまざまな音が流れます。時間に合わせた音が鳴るので、朝には小鳥のさえずり、夜にはいびきが聴こえます。
※2 座ると思わずコミュニケーションをとりたくなってしまうような仕掛けや絵の描いてある縁台です(例…将棋縁台、座る人の影で時間がわかる時計縁台など)。あなたならどんな縁台が欲しいですか?アイデアは芝の家で随時募集しています。

■3月末日 レコードコンサート “ジャズの名盤を聴く”

昭和といえはレコード。というわけで、ジャズの流れる居酒屋を営む近隣町会の会長さんに、若かりし頃に集めたという数百枚のレコードの中から、選り



芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご利用ください。



すぐりの名盤を聴かせていただきました。スピーカーもかつて大流行したYAMAHAのものを運び込みました。予約の方、当日ふらりと立ち寄った方、あわせて20人ぐらいて心地よい調べに耳を傾けました。飲み物と軽いおつまみの販売には近所の子どもが大活躍し、とてもアットホームな会となりました。



■4月 ウェブサイト仮オープン!

2・3月は毎週のように催しがあった芝の家。認知症サポーター養成講座やアメリカ・アレナスの対話型美術鑑賞ワークショップ、コミュニティづくり勉強会、落語を通して地域を知る「港区は落語の宝庫」、レコードコンサート、縁台お披露目会…など、一つひとつのイベントをこの日記に書きたいのですが、スペースの都合上そういうわけにもいきません。詳しくは現在準備中のウェブサイト上でリポートしていく予定です。ぜひウェブサイトも訪れてみてくださいね。

URL <http://www.shibanoie.net>

芝地区昭和の地域力再発見事業拠点
「芝の家」
芝3-26-10
TEL 03-3453-0474
●月・火・木 11:00～16:00開室
水・金・土 13:00～18:00開室

芝レポート
1「しいたけ」を学び、
育て、作って、食べる

～芝保育園の園児たちの貴重な体験～

芝保育園でさる3月18日(水)、年中・年長児を対象に、あきる野の里山自然塾の方の協力を得て「しいたけ菌の植え付け」を行いました。

まずは紙芝居でしいたけについて知識を得た後、グループごとに指導を受けました。次々に“ほた木”に穴が開けられ、山積みされる様子に興味津々の子どもたち。おじさんの説明に耳を澄まし、トンカチが手渡されるや否や、ほた木の穴にしいたけ菌を差し込みトンカチで叩いています。

最初はなかなかうまくいかず、しいたけ菌がポロリと落ちてしまいましたが、四苦八苦しながらも大工さんのようにトントンと上手に打ち込めるようになり、楽しくて仕方ない様子でした。1本全部打ち込んでしまうと「先生、終わったよ!」「もっとやりたい!」と希望者が続出。かなり重いほた木を友達と一緒にヨイショヨイショと運んで、打ち終わったらまた運んで、という作業をとても楽しんでいました。

また、大きく育ったしいたけをその場でもぎ、バター焼きにして食べました。スーパーで見るよりかなり大きなしいたけに驚いたり、もぎたての新鮮な味に「おいしい!」と感動したりしていました。めったにできない経験に楽しさ嬉しさも増したようでした。



info



芝保育園
芝5-18-1-101
TEL 03-3455-4669

芝レポート
2「ニュー新橋ビル」で
自衛消防・防災訓練

～250名を超える参加者が集まる～

春の火災予防運動期間中の去る3月4日(水)、ニュー新橋ビル自衛消防・防災訓練が行われました。午前9時30分にビル内部で火災が発生したとの想定で、ニュー新橋ビル自衛消防組織を中心に芝消防署員、愛宕警察署防災ボランティア隊員、港区職員らが誘導サポートを実施しました。避難者はJR新橋駅西口SL広場に設けた自衛消防本部に集合するとともに、ビル内外ではさまざまな訓練が同時に行われました。

芝地区総合支所は防災課とともに歩行困難者を想定し、「階段避難車」を用いた避難訓練に取り組みました。芝消防署は会場周辺にはしご車、ポンプ車、指揮車等々の災害対応専用車両を配し、ビル4階テラスからの避難訓練、レスキュー隊による負傷者搬送、ポンプ車による放水訓練等を展開しました。愛宕警察署防災ボランティア隊員は、避難誘導のほか物資支給まで対応しました。

午後には駅前広場で「起震車体験訓練」を実施するなど、ビル関係者のみならず、多くの人々が足を止め、訓練活動に見入っていました。



主催のニュー新橋ビル自衛消防組織によると、当日は250名を超える参加者がありました。芝地区総合支所では今後もこうした地域の消防・防災訓練を積極的に支援してまいります。

info



ニュー新橋ビル
新橋2-16-1

芝地区地域情報誌・編集委員を
募集しています!

芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、発行予定ごとに平日夜間、1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送で申し込みください。

【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
岩崎秀顕/大澤佳枝/桑原庸嘉子/小知和千佳子/
小林真紀子/森明

★また今後の発行スケジュールは次の通りです。
H21.8.20発行(第12号)、H21.11.20発行(第13号)、
H22.2.20発行(第14号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

※4月1日の組織改正に伴い、発行元が地区政策課から協働推進課に変わりました。

所在地：〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL: 03-3578-3192 FAX: 03-3578-3180
ホームページ: <http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/>

平成
21年度
から自動車税・自動車取得税の
減免制度が変わりました

東京都では、障害者手帳等をお持ちの方等が所有する自動車について、一定の要件を満たす場合に、自動車税・自動車取得税を全額減免していました。

減免制度の趣旨や税負担の公平性の観点から、平成21年度、減免制度を改正しました。



主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん

改正点 ① 減免上限額を設定します

自動車税については45,000円、自動車取得税については課税標準額300万円相当分を上限として減免します。(上限額を超える場合は、差額分を納付していただきます。)

改正点 ② 代替取得時の減免を見直します

自動車を取得し、自動車取得税の減免を受けた場合、盗難等特別な場合を除き、当該年度内は、買い替え等により取得した新たな自動車に対する自動車取得税の減免は受けられません。

なお、構造上専ら障害者のために利用される「車いす移動車」や「入浴車」については、引き続き全額減免となります。

実施時期

自動車税……平成21年度課税分から

自動車取得税……平成21年4月1日取得分から

●問い合わせ先 主税局課税部自動車税係 TEL 03-5388-2954

写真を
募集
します!

芝地区総合支所では
2010年版 芝地区
オリジナルカレンダー
を作成します。



カレンダーに掲載する写真として、あなたが芝地区で撮った四季折々の風景や思い出の場所、心に残る場所などの写真を募集します。

作品には住所(在勤、在学の方は所在地も明記)、氏名、電話番号を添えて、8月28日(金)までに、「〒105-8511 芝地区総合支所管理課」あて郵送、また持参によりご応募ください。

※人物を特定できる写真はご遠慮ください。

「みなとコール」は
暮らしの疑問にお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休/午前7時～午後11時

※英語での対応もいたします。

ゴヨウ(は)ナーニ ミナト(コールです)

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

警視庁犯罪被害者
ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに
勇気を出して
相談してください



匿名でも
OK

秘密厳守

お気軽に

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840

愛宕警察署